

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

60年6月現在会員数
逗子地区 170名
葉山地区 301名
大船地区 62名
(合計) (533名)

60年7月号(156号)
7月発行 者
根岸 岳萃
編 集
中 村 愛 岳

山形吟行会特集

吟行会寸描

会長 根岸 岳萃

色々話題の蓄積した山形寒河江を訪問したいということは多年私の夢でした。恩師松井岳洋先生の奥さんの出生地であり、終戦前後先生も亦約三年間疎開され、当時を語られる中の色々の事物、慈恩寺、吟魂碑、蔵王等々。

今度漸く実現することが出来ましたが、生憎総本部の法人総会にぶつかってしまった先生には参加してもらえぬかと思ってしまうところ、総会終了後夜行列車で馳せつけて戴き、誠に有難く感激の極でした。

一泊した天童から慈恩寺への道中、早速に寒河江の吟友のお出迎え、ご先導をうけ寺には十数台の自家用車が待機という歓迎をうけ(そこで松井先生と再会)寺院見学後、車に分乗させて戴いて吟魂碑に到着して又驚き、そこでは五、六十人の吟友の歓迎に一同目頭が熱くなる。大感激で、今度の吟行会は普通の吟行会と違って寒河江吟友会の方々の暖かい歓迎で、東北人の人情の厚さに接したことは、名物のサクランボ

にもまさる素晴らしい収穫でした。

「桃花潭の水深さ千尺

及ばず汪倫が我を送るの情に」

寒河江吟友会の皆様に厚く御礼申し上げます。

ふるさとの土をふんで

県総務理事 安孫子 岳晴

根岸先生から山形吟行会へ誘われたとき二つ返事で是非ともお願いしたい!と返事をしました。八日・九日の連休は他にどの様な用事があるうと、それを断つてもという気持ちがあったから返事には何の躊躇もしなかった。前の晩、明日の朝は早いからといって、いつもより多少早目に床に入りましたが、田舎を想い出して寝られないのは、子供の頃の遠足の前夜と少しも変らなかつた。

山形に入ってバスの中から眺める風景は昔のそれとはずいぶんと変わったものだと思つたが、慈恩寺に着いて一挙に三十年前のカプセルを破った世界に自分が居る様な気がした程、周囲が何もかも変わっていない。寒河江川の流れもあれからずうっと今も流れ続けている。こゝ慈恩寺は小学校三年生の時の遠足の場所であった。もく目の見える本堂の縁に小さな腰を下ろし、小さなリュックからお袋のつくつくしてくれたおにぎり

をとり出して無心に喰べた時のあの、のりの臭いが今にでも漂ってきそうな気がした。三重の塔も、あの赤い臥竜橋も、何もかも昔のまゝであった。ひと時、子供の頃の昔に想いをはせて感無量であった。

平野山で寒河江吟友会の皆さんの歓迎には心を打たれました。吟がかけ橋とは言え田舎の人の心の豊かさには敬服した。「松井理事長先生は碩心会のお人だけでなく、我が寒河江吟友会のお人でもあります」。司会者のこの言葉は先生のご人格の総てを言いつくしているかのように思えた。是非とも碩心会と姉妹会を結んで頂きたいものである。

さくらんぼの産地で生まれ育った私は、都会に出でからは店で買って喰べているがどれを喰べても本当の味を知っているだけに物足りない。桜桃は木から直接とって喰べた味が最高だと確信を持っている。松井先生の奥様の実家に寄せて頂き、畠の中で木になっっている見事なサクランボを自分の手でもぎ取り、口に入れていた皆さんの顔を見た時、私はその確信を一層強くした。帰路は上の山を通ると言うが、上の山は山形県の温泉場では他県の人に最も良く知られたところである。戦後天皇陛下が民間の旅館として一番早くお泊りになった村尾

館がある。又県出身の文化人として他県に誇れる人は斉藤茂吉である。茂吉記念館を見学して、超人の力士として知られた出羽嶽文ちゃんや養子同志の兄弟であることの意味に驚いた人もたくさんいた。

バスは一路出羽は羽前の国から、武蔵の国を通り我が相模の国へと帰って来た。途中自宅の近い所で下車をさせて頂いたが、一泊二日の短い旅ではあったが、何と意義の深い吟行会であったことか。碩心会、そして山形の人々の暖かい心にふれ、又案内役の長谷川さんにはお世話になりました。此の度の素晴らしい企画に感謝致します。

始めて知った寒河江

副会長 加藤 岳相

新緑溢るゝ寒河江……。松井先生安孫子先生には誠に申し訳ないが、根岸会長の吟行会の発表によって始めて知った地名であった。

出迎えるの車に分乗して、なだらかな丘に建つ吟魂碑へ。入口に「歓迎碩心会吟友の皆様」と書かれた白い大きな看板が、サクランボが鈴なりになっている木の緑にひときわ映えて、心の温まる思いであった。

挨拶あり、交歓吟詠ありで楽しいひとときではあったが、寒河江吟友会の皆さんの

心温まる歓迎に厚く御礼申し上げたい。

出迎えるの車が二十台近くもいて我々をびっくくりさせた事、碑が建つ丘にはたくさんの方が出迎えてくれて厚いもてなしを受けた事、吟友ならではとしみじみ感じさせられた今回の吟行会であった。

詩吟の里寒河江

相談役 三井 雲岳

詩吟の里寒河江の里と言った方がふさわしい気がします。人口四万の市ですが、大きい部落が散在する町と言った方がいゝようです。

ここに松井先生によって育まれ、会長、副会長等によって、50の教場と745名の会員から成る詩吟の里があります。清純真摯な会員の皆様と交遊を持ち、この里を見渡す丘に、松井先生の雄渾な筆になる吟魂碑に接して、永久忘れることの出来ない深い感激でありました。

吟友ということば

許証部長 中村 幸岳

岳風流統に連る吟道会、それだけで初対面なるも、百年来の友人を迎える熱烈歓迎。"吟友"の重み、深さを改めてかみしめました。

吟道に対する熱意に敬服

逗子地区長 千葉 劔岳

(1) 庄内平野を一望に見渡せる風光絶佳の山あいに、そして松井岳洋先生ゆかりの地に先生直筆になる吟魂碑が建立され、その傍に祖宗範木村岳風先生の、温顔の中に厳しい内面をのぞかせた胸像が建立されている。祖宗範と松井先生の師弟の情と、寒河江吟友会全員の方々の松井先生への敬慕の情などが、私の臉に重複して映像された感があったのである。

(2) 現地の吟友の方々が、バスの入れない所を自ら車を運転されて、車中細かに説明などなされたが、短い交流時間の中に貴重な懇談ができ、吟道に対する熱意のほどに敬服したところである。

(3) 今回の吟行会が何時にも増して楽しかった要因は、参加者一同の協力態勢と、現地吟友諸兄の心からなる歓迎を受けたことにその根源があるかと考えるものである。将来他会の当地方交流等がある場合は、いずれの会と言わず、吟友として誠意をもって当るべきであると感じた次第。

姉妹会として交流を

企画部長 千葉 香岳

(1) 蔵王エコーラインに入って間もなく霧が出始め、山頂近くでは三米先も見えなかつた程なのに、あと一曲りで頂上と云う時にサァーッと霧が消え、待望の「御釜」を見下す事が出来た感激!! 全員思わず歓声をあげました。皆さんの日頃の心掛けのよさを神様が賞で下さったのでしょうか?

(2) 吟魂碑の前で寒河江吟友会の会長と、碩心会の会長が、姉妹都市ならぬ姉妹会の契りを結ぶ握手をされましたが、今後姉妹会としての交流を進める具体策を考えるべきだと思いました。

サクランボせかいいちすきー!!

広報部長 中村 愛岳

寒河江吟友会の皆様の温情に涙：涙でした。来てよかったーとつくづく思いました。又松井先生御親戚の美味しいサクランボ：高価なものをこんなに喰べたのは生れてはじめて。御馳走様でした。

家に帰り孫ちゃんに「おみやげサクランボにしたよ」と言ったら、二人が口を揃えて「やったー！サクランボすきー！せかいいちすきー！」ですって。私達も思わず「よかったー！」。朝昼晩喰べてお弁当にも入れてと好かれたサクランボさん。季節がきたら毎年送って貰おうネと指切り約束。

短歌

大船B 森田 暁岳

慈恩寺へ 車をつらねて参詣し

古き文化の 歴史を語る

寒河江市の 小高き丘の吟魂碑

吟友集いて 吟声とよろく

枝もたわゝな サクランボ

ちぎりてほゞばる 吟友^{とも}の笑顔よ

虹の見送りをうけて

大船A 岩崎 恵岳

第一日目、かねてより念願の寒河江吟行の朝を迎え晴れやかな顔で車中の人となる。根岸先生と今回特別参加をいたゞいた安孫子岳晴先生の挨拶にはじまり根岸先生の音頭で「正気の歌」を吟じ、つゞいて各人一吟、つゞは大変勉強になった。さして滯りもなく、不可能と思われていた「お釜」も見物でき天童ホテルに到着。夕食後日本一の将棋の駒作りを見学、明日の旅を夢みながら夜は静かに更けていった。

蔵王嶺や 身も石ころも梅雨の翳^{かげ}

夏蔵王 風に残雪汚れたり

みちのくの 友情厚きさくらんぼ

薫風や 天女舞うなり絵天井
短夜や 息つめて彫る将棋駒

第二日目、昨夜の雨で山々の緑が美しい。寒河江吟友会の皆様の温いお心遣いに迎えられる、東北の名刹慈恩寺を訪ね、山門の仁王像の風雪に耐えぬき、手足の風蝕の痛ましきを見、北国の冬のきびしさが思われた。さくらんぼ畑をぬけるとそこには思いもよらず寒河江吟友会の方々の出迎えがあり胸がいつぱいになった。吟交歓のあと、松井正風さんが「母を捧じて嵐山に遊ぶ」を朗々と吟じ、感動で目頭が熱くなる。

心尽しの御馳走を頂き、名残り惜しみつつ、松井先生の奥様の実家のさくらんぼ畑では童心に却り、ついで上の山の斉藤茂吉記念館を見学、帰路についた。帰りの車中では松井先生の「椰子の実」を聞かせていただいたり、クイズや歌で楽しく過し、途中降り出した雨も止んで、美しい虹が私達を見送ってくれました。

感涙頬をながる

風早代(代) 杉山 雪岳

一日目の旅の疲れを天童ホテルの出で湯で流し、朝の目覚めは爽か。二日目慈恩寺に直行、ここでおどろきました。寒河江吟

友会の皆様が車十四台をつけ一行を待っていてくれたのです。

風雪にたえた古き慈恩寺を拝観、車で吟魂碑のもとへ。列をなした多勢の皆様方の拍手の波に感涙が頬をながれ、体がふるえるのを覚えました。

小高い吟魂碑の前で心づくしの一本漬の味、太陽の光、目にしみる青葉、赤いさくらんぼ、黒い土、あのひとときの感激は忘れることなく心の奥に深く残ることでございましょう。この吟行会を企画しお骨折りいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

(風早参加) 行谷松山・高橋光子

忘れえぬ素朴な味

堀内 佐藤 湧岳

吟魂碑前の交換会に婦人部の方達手作りのキャベツ、胡瓜、わらびの入ったおしんこ、きゅうりの一本漬をそのまま戴き、何のかざり気もない素朴な味に心打たれました。

又松井先生の奥様の実家でさくらんぼ狩りをさせていたとき、家に帰ってみたら、くきをついていないのが二十近くもあり、取り方が悪くて後始末に大変御迷惑をかけているのではないかと、心配しております。ごめんなさいネ。

よき師に恵まれた倅せ

堀内 矢嶋 悦岳

此の度の山形吟行会にお骨折り下さいました会長先生、細かいお心くばりいただいた千葉先生、ユーモアな司会で楽しませて下さった中村先生、御同行下さいました皆様、ありがとうございます。

深い霧にとざされたエコーラインが、山頂に着くや一変して、壮大な風景に目を見はりました。断念していたお釜を見、山合いの残雪を見、何ものが感激でした。

又寒河江吟友会の皆様には暖かい歓迎を受け胸つまる思いで二日間を有意義に過ごしていたときました。

末筆乍ら松井先生のお人柄を直かに感じよき師に恵まれた幸せをかみしめている今日です。

ぜひ次の旅も同行させていたゞきたく存じております。(堀内参加) 小西勝山他

胸像・交流を見守る

桜山A(代) 広瀬 翔岳

この度の旅行はお天気まで頑心会に付合ってくれ、又最高のバスで酔うこともなく楽しい旅をさせていたゞきました。慈恩寺を案内して下さる車の行列に、みちのくの

吟友の熱い友情に思わず泣けてしまいました。雄大なる吟魂碑の左に祖宗範岳風先生の胸像が我々の交流を見守って下さる様でした。よくぞこの様な大事業をと、寒河江の方の吟に対する心意気に又涙、碑の前の独合吟も素晴らしく、短い時間の親睦会には御婦人方丹精の漬物山菜の味は一生忘れないと思います。この様なおもてなしを受けられるのも松井先生、会長先生始め諸先輩の人徳のお蔭と感謝しております。企画の先生方、車中楽しく盛上げて下さった司会の先生方ありがとうございます。

(桜山A参加) 荒木笙風 西村昌風
佐竹梢風 寺脇歌風 杉本恵山

もう一泊できたら…

真澄代 村田 静岳

見渡すかぎりの緑の田圃の小高い処に吟魂碑が建てられすばらしいものでした。そしてそこに集っていた吟友の皆様の大歓迎を受け、交換吟の事もさやかにひびき渡り、本当に感激しました。

眺めの美しさと心あふれる人情に接し胸がいっぱいになりました。もう一泊してゆつくり交換の会がもたらどんなにかお互いに心が通じ合ったのではないかと残念に思いました。(真澄参加) 重松由風

姉妹会として未長く

逗子A 松井 正風

私にとって今度の山形吟行会ほど思い出として残り、また感激したことがありません。今後共、両会が姉妹会として未長くおつき合い出来ませう様にお願いしたいと思います。

残雪のエコライン

堀内 佐久間爽風

蔵王エコーラインには、いわかゞみや、こま草が咲き、残雪もありました。平野山の立派な吟魂碑の前で詩を吟じあい、お心のこもった歓待に、喉がジーンとなるのでした。人口四万人の寒河江市に七百五十名も会員がいられるとききました。

松井先生の奥様の御実家で好意にあまえ桜桃をのめいめい樹から採っていたとき、その新鮮な味が口の中いっぱいひろがりおいしかったこと。感激と驚きに満ちた往復一〇〇料。楽しい旅でした。

こま草の 咲く山路来て湖碧し
夏霧の 晴れ火口湖は暖らかに
桜桃を 採るやこぼる陽の光り
桜桃や ゆくての雲のみづみづし
山峡の 雨おりおりに朴の花

人生のひとつま

逗子A 石渡 啓風

寒河江吟友会諸兄弟の暖かい出迎えを受け、平野を見下す丘に偉大な吟魂碑を仰ぎ、傾心会の詩を合吟した時は感無量でした。サクランボ狩りも忘れられない人生のひとつまでした。

俳句

銀詠 清田 霜風

五月闇 されて嬉しい寒河江行

吟友の 心映えなる五月晴

涙ぐみつゝ

逗子A 安田 寿風

心温まる皆々様のお出迎えに感謝、感激涙ぐみつゝ詩を吟じました。

初参加

松和 宇都宮徳風

傾心会の吟行会に初めて参加させていただきましたが、大変楽しく、且又有意義な旅行で、参加して本当によかったと思っています。松和支部から誰も参加しないのでいわばお義理の積りで申込んだのです。それからおえらい先生ばかりで恐れをなし

大変緊張して出席した次第です。ところが新参の私に対しても会長以下の皆様方が非常に気を使って下さいまして、お蔭様で気楽に溶けこませて頂き、この旅行中多勢の方々とお話することができ、特に各指導者方が「吟」に対して熱心な取組みをしておられることを伺い、非常に啓発され感謝しております。

更に寒河江の松井先生御親戚の皆様及び同地吟友会の方々の御温情に触れることができました。非常に感激致しました。

終りに今回の吟行会の企画、司会その他のお世話を頂いた役員の方々のお骨折りに厚く御礼申し上げます。

寒河江吟友会と姉妹会を盟約す

宇都宮 徳風 作

顕彰碑の畔吟声に満ち

同志交歓野宴盛なり

茲理事長縁故の地

相偕に喜びて約す姉妹の盟

さくらんぼ狩は最高

逗子A 田中 明風

蔵王エコーラインの霧がパッと晴れ、お釜のすばらしさが頭の中にクッキリと焼きついている。

寒河江吟友会の方々が自家用車を用意しての待機出迎えにはびっくりしました。

古刹慈恩寺のわらぶき屋根のふき替作業も初めてみて想い出の一つとなりました。

サクランボのアーチをくぐり、吟魂碑に向い、多勢の吟友の方の出迎えに感無量。碑の大きくすばらしさにびっくり。わずか30分位の交換会でしたが胸いっぱいでした。

そして松井先生の奥様の実家に立ち寄りサクランボのもぎとりは最高で、一生の思い出となりました。

短歌

逗子A 綾部 秋岳

人情と 熱き心に支えられ

たわ々に実るさくらんぼ

吟友は吟戚

逗子A 渡辺 秀風

詩吟音頭にあります、まさに吟戚同志。心暖まる皆様方のお出迎を受け感激。

耳に残る山形弁の地を訪ねて

堀内 高井 定山

とても古いお話ですが、私が修学旅行で関西に行った時、同宿した女学生が山形県の学校でした。その中の一人が私に「い

つか必ず山形に来て下さい。桜桃の頃はとても美しいですよ」と云って、メモ用紙に名前と住所を書いてくれました。私は大切に本の間に挟んで、時折出しては、まだ行ったことのない山形を想像していました。

そのうち戦争、疎開、引越と、四十五年の歳月が流れ、とうとう行くチャンスもなく、あのメモ用紙もいつの間にか紛失してしまいました。然し不思議にあの山形弁の声だけが耳の底に残っており、一度行って見たいと念願しておりましたところ、此の度思いがけなく山形吟行会のお話があり、喜んで参加させて頂きました。

この会はたゞの物見遊山と異り、車中に於ても諸先生の素晴らしい吟を拝聴させていたゞいたり、先輩の皆様も聞かせて頂き本当に勉強になりました。

又寒河江の吟友会の皆様には温いもてなしを受け感謝でいっぱいでございます。この感激を胸にもっともっと勉強せねばと、決意を新たにいたしました。

最後に、この様な会を企画して下さいました諸先生並びに、先輩に厚く御礼申しあげ又の機会を楽しみにしております。

俳句

横警 新井 衛泉

さくらんぼ ほゝばる心母憶う

つかのまに 顔のぞかせるお釜かな
天童に 湯花さかせる吟詠会

寒河江野に ひゞけと吟ず碩心詩

短歌

さくらんぼもぎとる人の肝ひやす

野空にひゞく 鳥追いの音

羽黒山 いづくにありとみわたせば

ただ霧のみの みちのくの旅

(以上順不同)

吟行会よもやまばなし

◇松井先生長女の方と安孫子先生は小学校の同級生とか。

◇高井定山さんが幼稚園の先生としてはじめて受持った生徒の一人が松井正風さん。

◇碑前に於て代表吟をした松井正風さんはなんとこの日が奇しくも誕生日で大感激。

又碩心会の発会と生まれ年が同じという。◇堀内Fの斉藤和泉さん、若き頃看護婦として今は亡き石津先生のお宅に一週間ばかりいた事があり、その頃まだ健在だった松井先生の奥様が時々みえられた。清楚で、親切で、優しい奥様だったことを思い出し、吟道に入ったことにより、亡き奥様の実家を探ねるのも不思議な縁。

常任理事会議事概況

日程 60年6月29日(土)18時30分より

会場 返子市奉仕店会事務所

(議事)

(一)七月七日温習会合吟コンクールについて

◇副賞を本年度より廃止することとし、参加賞を参加者全員に贈呈する。

◇審査委員は常任理事以上とし、委員長に三井雲岳氏を指名

(二)会則第八条に基づく副部長の新任・異動について審議決定し、後日会長より指名することとされた。

(連絡事項)

(一)県大会の実施について

◇日程・九月十六日(月)

◇会場・海老名市「海老名文化会館」

◇出吟割当・二分宛十題(出吟者112名)

◇合吟コンクール・二題(十名一組とし、六月十六日横二大会時の優勝チームを

主体として一組、及び返子地区より一組出吟することとする。)

◇詩舞一題・(律詩程度・京愛会より出演、吟者は二名とする)

◇一般合吟三題・(各地区より一題づつ)

◇独吟三題・(内常任理事中より一名出吟することとする)

(二)六十一年度以降の審査課題について

審査課題が決定し、県本部審査委員会にて「審査課題のテキスト」二部を作成し

頒布するので(一冊二百円)希望者を支部毎にとりまとして、教務部長(竹石憲岳)に

現金を添え七月二十日までに申込むこと。

◇初段、六段及び正師範囲

◇七段、十段及び正師範囲

(総務部・加藤圭岳)

全国選抜者大会に出場

6月30日(日)読売ホールに於て右大会が行なわれ碩心会より松井正風さんが出場されました。

あじさいを訪ねて

鎌倉散策

六月二十一日、鎌倉散策シリーズ四回目あじさいを訪ねて花の曼荼羅堂へ。お猿昌の名のある法性寺は、同行の佐久間爽風さんの御主人、故溪岳氏の菩提寺であり、たまたまこの日は命日であるということ、墓前に花をさげ、故人が生前好まれたという「半夜」の詩を合吟、故人もさぞ喜ばれたであろうと感無量でした。ぬかるみに足許を気にしつゝ山道を行く

と「踏み破る千山」と吟声が聞えてきた。思わず「万岳の煙」とつゞければ、どちらともなく言葉を交わす仲となり、そのうち下ってきたグループの中に、もと傾心会員の方がいて、奇偶を肩抱きあって喜びそのグループが青嵐会深沢教場の方々と分った。誰からともなく合吟しましよというということになり、「富士山」を合吟するという一幕もありました。

鎌倉時代の僧侶や武将の納骨窟であった「やぐら」又ひっそりと建っている石の五輪塔に、絢爛でありながら且憂愁の美を備えもつあじさいが雨に打たれて風情を添えていた。偶然にも亡き吟友の墓参が出来、青嵐会吟友との奇しき出合ありで、意義ある一日でした。(愛岳)

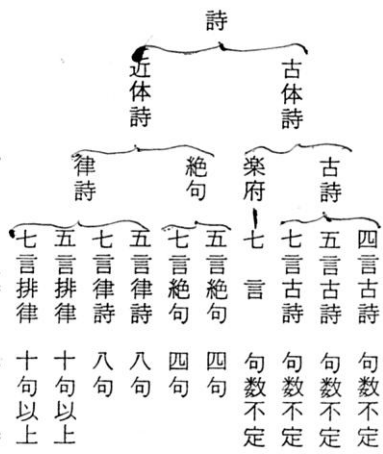
白井 寿風
吟流る梅雨の難所の名越坂(青嵐会と合吟)
施主知らぬやぐらの群や梅雨の冷え
比企館小袖の塚に速雷す

葉狩 明山
まんだら堂ころ漂ひ花菖蒲
あじさいや寺苑に吟声ひびきわた
すほめたる傘の向うの花菖蒲

練吟メモ

○教本に出て来る漢詩は、詩形のうえから「古体詩」(古詩ともいう)と「近代詩」(今体詩ともいう)とに二大別される。近体詩が成立したのは、初唐(六一八—七一三)であるから、それ以前のは古体詩という区分の仕方がある。しかし、唐以後の時代でも、古体の詩形で作った詩も数多くあり、これらも古体詩といっているので、古体と近代の区別は、時代による区別と、詩形による区別の二通りある、ということである。

○ここで、ごく簡単に漢詩の種類を表示すると次のとおり。



○さてここで、とくに漢詩に関心をお持ちの方は、面倒ながら教本を見ていただきたい。『貧交行』(二・七七)は、一見七言絶句のようであるが、転句が八字であるの

で絶句ではない。上表の種類からすると、「古詩」であり、七言が基幹となっているので、七言古詩ということになる。

○「山中問答」(二・七四)はどうかしら。各句末の山・閑・間が同じ韻(平声上一五)を踏み、七絶のような形はしているが、平仄の大切なきまりが破られている(二四不同と二六対だけでも四カ所)ので七古ということになる。覚えておいた方がよい。

○頼山陽の「述懐」(一・六八)は、六句であるから、もちろん律詩ではなく、五言古詩である。「天草洋に泊す」(一・六六)と「前兵児の謡」(一・七〇)は、説明するまでもなく、七言古詩である。では、「本能寺」(一・七二)と「蒙古来」(一・四七)はどうか。古体詩の中の「樂府」に属する。山陽の「日本樂府」全六十六曲のうち二曲である。

- (支部長交替)
松和支部長 佐々木幹風を木村松風に
大船A支部長 岩崎恵岳を村井清山に
(入会)
708 堀内イサ 葉山町一色九四〇—
(平松) (電)〇四六八一七五一—三五四
(退会)
299 西岡嵐山(堀内・E)